

○『伊勢物語』「筒井筒」第一段落 品詞分解 【教科書39頁・一行目〜十一行目】

昔、
田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに

☆田舎で生計を立てて暮らしていた人

☆子供たち(複数)⇨幼なじみの男子と女子

已然形+「ば」⇨順接の確定条件【…ノデ、…カラ】

出でて遊びけるを、大人になり**けれ**ば、**男**

『田舎わたらひしける人』たちの『子ども』幼なじみの男子と女子が、『大人』になって『男』・『女』になった

已然形+「ば」⇨順接の確定条件【…ノデ、…カラ】

も女も、**恥**ぢかはしてあり**けれ**ど、男はこ

係り結び ⇨強意(この女を妻にしたいのだ!)

の女を**こそ**得**め**と**思**ふ。女は**こ**の**男**

「得」…妻にする。夫にする。⇨結婚する。

「こそ得め」の省略

を**と**思**ひ**つ**つ**、**親**の**あ**は**す**れ**ど**も、**聞**か**で****な**む

☆格助詞の(意味→主格)…「が」⇨訳(女の)親が

主語 女は

『このように』

あり**ける**。さて、**こ**の**隣**の**男**の**も**と**よ**り、**か**く

訳 (女は)聞き入れずにいた。なぜか? 女は幼なじみの隣の男と結婚したいと思っていたから。⇨女の親が他の男と結婚させようとしたのたという

ここを確認する!

☆結びの省略⇨「言ひける」が省略されている。正式な表記は「なむ言ひける」

係助(強意) なむ

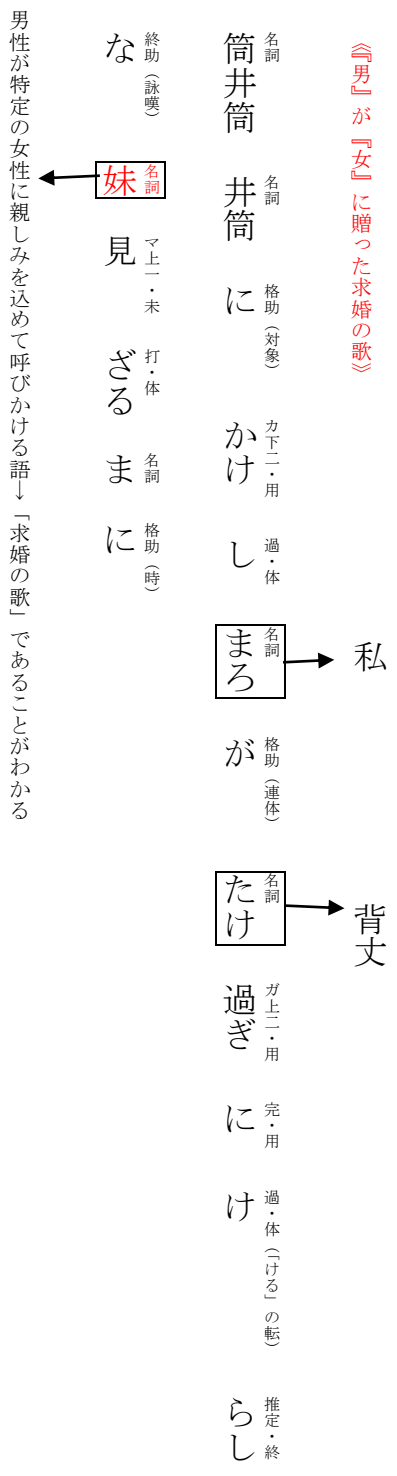
▼『隣の男』が『かくなむ言ひける』⇨『隣の男』が『このように(歌を贈ってきた)』状況について…

『田舎わたらひしける人』たちの『子ども』で幼なじみの男子と女子が、成長して『大人』になり『男』、『女』と

呼ばれるようになった。(↓成人し結婚できるようになったということ)

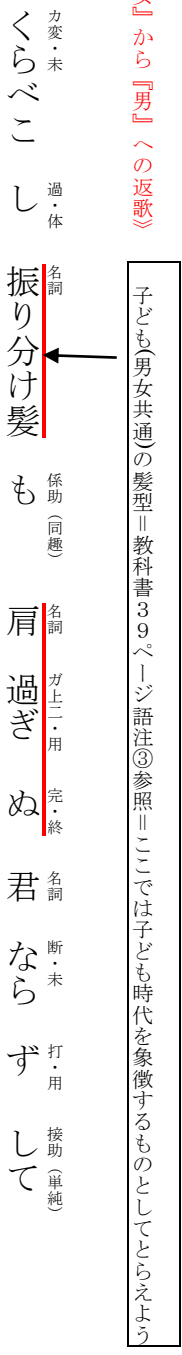
この『男』は、同じく『田舎わたらひしける人』たちの『子ども』で幼なじみの女子(成長して『大人』になり『女』と呼ばれる)と結婚したい(本文では『この女をこそ得め』に当たる部分)と思っていた。この『男』は、この『女』の隣に住んでおり(なので『隣の男』とも表現されているが『男』のこと、この『女』に「求婚の歌」を贈ってきた(本文では『この隣の男のもとよりかくなむ』当たる部分)。

『男』が『女』に贈った求婚の歌

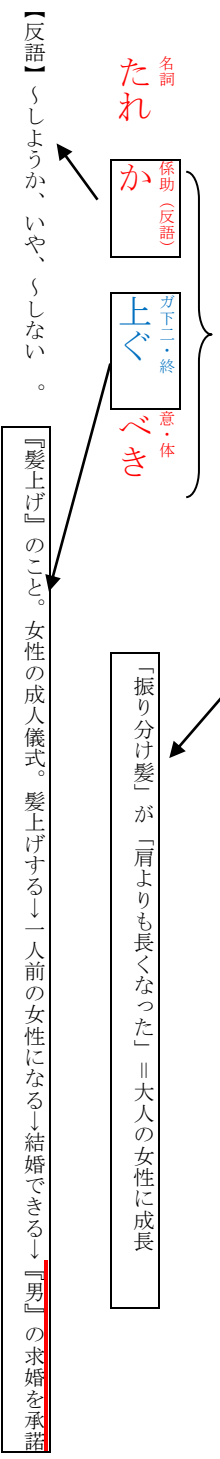


女、返し、

『女』から『男』への返歌



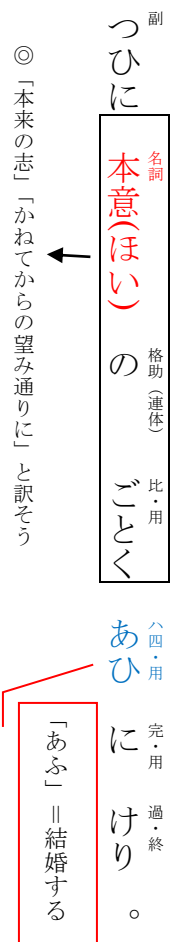
係り結び



言ひ 言ひ て

副助(引用) 八四・用 接助(單純)

◎動詞の連用形を重ねる||動作の反復・継続を表す↓『男』と『女』が和歌のやりとりを続けたことを表している



○「筒井筒」 第一段落 口語訳

昔、田舎で生計を立てて暮らしていた人の子供たちが、井戸のそばに出て遊んでいたが、大人になってしまったので、男も女も互いに恥ずかしく思うようになっていたけれども、男はぜひこの女を妻にしようと思う。女は、この男を（夫にしたい）と思いつけて、親が（他の男と）結婚させようとするけれど、（女は）聞き入れずにいた。そうこうするうちに、この隣の男のところから、このように（歌を贈ってきた）。筒型の井戸の井筒と高さを比べあつた私の背丈は、（井筒の高さを）越してしまったにちがいないよ。あなたに会わない間に。

女が返事の歌を、

（あなたと長さを）比べあつてきた私の振り分け髪も肩より長くなりました。あなたのためでなくて、誰のために髪上げをしましょうか、いや、しません。

などと歌のやりとりを続けて、ついに本来の志通りに結婚した。

○ 内容解釈

幼なじみの男子女子

↓ 成長して『男』『女』

男はこの女を こそ得め

両想いになり結婚したいと思う

女はこの男を (こそ得め)

●『男』の歌 — 【私は一人前の男になった】⇨『女』への求婚

●『女』の歌 — 【私が髪上げするのはあなたのためです】⇨あなた以外の人とは結婚しません

求婚の承諾

○ 確認と練習 ※解答は、ノートに適宜スペースを設けて書き入れなさい。

(1) 伊勢物語のジャンルを答えなさい。

(2) 『君ならずしてたれか上ぐべき』について、

(a) 何を「上ぐ」のか、答えなさい。

(b) 「上ぐ」が意味することを、十字程度で答えなさい。

(c) 反語に注意して口語訳しなさい。

(3) 『本意』にあたる部分を、文中から二か所抜き出しなさい。